

川上ダムオオサンショウウオ保全対策検討会 議事要旨

開催日時 令和6年11月28日

開催場所 独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所川上ダム管理所 会議室

出席委員 5名

【議事】

- (1) 会則の変更について
- (2) 前回検討会のご意見等への対応
- (3) 生息環境の改善
- (4) モニタリング調査結果
- (5) 今後のモニタリング調査等

【審議結果】

委員から、次のとおり指導、助言があった。

- (1) 会則の変更について

○会則の変更について、了承された。

- (2) 前回検討会のご意見等への対応

○特になし。

- (3) 生息環境の改善

○人工巣穴でこれほど繁殖や利用が確認される例は三重県内においては珍しいため、他事業の参考になるよう今後に取りまとめる報告書に設計図等を掲載することが望ましい。

- (4) モニタリング調査結果

○本種は定住性が高いとされており、移転の影響が強い場合には移転個体の再捕獲率が従来から生息する個体よりも高くなることが考えられる。移転の影響を把握するためには、移転時に放流した場所と再捕獲した場所の関係を確認した上で、経年的な再捕獲の状況を整理してみるとよい。

○人口巣穴について、利用頻度が高いものは土砂除去頻度が低い傾向があるように見える。

利用頻度について、人口巣穴周辺の水理的特徴との関連を分析すること。

○モニタリング調査による確認個体数について、水温の影響があるとするのであれば、具体的な関係について分析すること。

○遡上路について、これまでオオサンショウウオが遡上利用していることに注目し整理していたが、利用率の悪い遡上路や壊れやすい遡上路などにも着目し、他事業の参考になるよう今後取りまとめる報告書に整理すること。

- (5) 今後のモニタリング調査等

○遡上路は、オオサンショウウオが移動するために重要な施設であるため、現状を確認する調査は継続すること。

○生物への影響は10年など長い年月をかけて表れてくる。長期的なオオサンショウウオへの影響を考え、河川水辺の国勢調査（フォローアップ調査）において、川上ダム特有のテーマとして調査を実施していくこと。

以上